

# ヨシでびわ湖を守る ネットワーク通信

09

VOL.



ヨシ原ではヨシ焼きが終わり、新しい芽吹きが始まっています。これから暖かさが増すごとに丈夫なヨシが次々と育ってくれることでしょう。震災からの復興を感じさせてくれるように。

2011.3月末 伊庭内湖のヨシ原にマ

みなさん前号で紹介したアユモドキという魚についてもう少しご紹介します。

アユモドキは、びわ湖・淀川水系と岡山県内の限られた河川にだけ生息し、昼は岩陰に隠れており夜になると行動する魚だそうです。

姿、形はアユに似ていることからこの名前がついたそうですが、口に6本のひげがありドジョウの仲間です。1977年に国の天然記念物に指定されている魚です。

現在、環境省や滋賀県の絶滅危惧種とされており滋賀県内ではここ数十年発見されておらず、大変貴重な魚です。

こんな貴重な魚が生息しているびわ湖周辺の水環境を私たちは、大切に守って行きたいものです。

みなさんも一度、インターネットでアユモドキを調べてみてはいかがでしょうか。

まめ  
ちしき



## びわ湖を知る ■ 問題

<問題> びわ湖に生息する魚類で固有種と呼ばれているものは何種類いるのでしょうか。

- ① 12種                      ② 8種  
③ 25種                      ④ 15種





## やっだ 甲賀地域の谷津田の自然

みなくち子どもの森自然館  
河瀬 直幹 様より

甲賀地域は滋賀県の南東部にあり、びわ湖に注ぐ最も長い川、「野洲川」の源流域です。また、皆さんもよく知っている鈴鹿山脈が東部に、信楽山地が西部にある地域で、甲賀地域の中央部を南北にかけて近畿地方でも有数の広い丘陵地帯（低い丘の連なり）が広がっています。今回、あまり知られていない甲賀地域の丘陵地帯にある谷津田（やっだ）の貴重な自然について紹介します。

### 【甲賀地域の谷津田とは】

まず「谷津田」とは聞きなれない言葉ですが、“谷にある田んぼ”のことです。「谷津田」とは、東京近郊の狭山、多摩、房総など広い丘陵地帯に数多くの「～谷津」という谷があり、その中の田んぼを意味する関東地方の言葉です。甲賀地域の丘陵地帯は大小の谷が無数に入り組み、その奥まで田んぼが続くためこの「谷津田」という言葉を使うことにしました。



『甲賀地域の谷津田の景色』

### 【谷津田のある丘陵地と粘土層】

谷津田の自然はどのようにして出来たのでしょうか。甲賀地域の丘陵には、“粘土”の多い地層が覆っています。これは約300～200万年前に、湖の底に積もった地層（古琵琶湖層）です。つまり、大昔の湖底が長期間の地殻変動によって盛り上がった丘陵だったのです。この低い丘に雨が降ると、水は粘土の層に阻まれ、地下深くには浸み込まず、それぞれの斜面で小さな湧き水となります。数多くの「谷津（谷）」が出来たのはこうした理由で、その谷に人間が田んぼを切り開き、谷津田が生まれたのです。現在でも谷津田の周囲の斜面には小さな湧き水が数多くあり、こうした場所は一年中湿った「湿地」の環境となっています。



緑色の部分が、谷津田のある古琵琶湖層の丘陵地帯

### 【生物多様性と谷津田の自然】

この湧き水による「湿地」の環境は、谷津田の自然の大きな特徴です。斜面からの湧き水が田んぼの中や周囲の溝を一年中潤すため、谷全体が湿地的な環境を保っています。そのため、他の地域や平野部の水田にはあまり見られない数多くの生き物が見られます。中でも特徴的なのは、カエルなど両生類の種類が豊富なことです。



『ニホンアカガエルの卵』



# 特集 2ページ



『ナゴヤダルマガエル』



『カスミサンショウウオ』

滋賀県でよく見られるニホンアマガエル、ウシガエル、トノサマガエルだけでなく、シュレーゲルアオガエル、ツチガエル、ニホンアカガエル、ナゴヤダルマガエルといった各地で減少したカエルのいる場所が多く、カスミサンショウウオもすんでいます。全国的に両生類が減少する中、これらの両生類が広く生息する地域は大変重要です。その他にもメダカやホトケドジョウといった希少魚類など、湧き水を頼りにする多くの水生生物が住んでいます。

植物では、モウセンゴケなどが生育する自然の湧水湿地が斜面に点在し、周囲にはハルリンドウが咲きます。ササユリなど野草も、田んぼと雑木林の間の草地斜面に見られます。谷津田の自然は、湧き水に潤される田んぼ、周囲の草地、雑木林の多様な環境が隣接した“セットで存在”する非常に生物多様性の高い自然環境なのです。



『ハルリンドウ』

## 【谷津田の自然の危機】

しかし生物多様性が高い谷津田の自然は危機を迎えています。それは谷津田は面積が小さく、粘土質のぬかるむ地盤(生産効率が低い田んぼ)であることから、放棄されササ藪となったり(乾燥化)、スギ植林が行われ(森林化)、環境が単調化しつつあるためです。また、丘陵地の丘を削り谷を埋めると広い平地地が出来るため、工業団地や住宅地の開発が進みました。甲賀地域が近畿地方有数の“ゴルフ場銀座”であるのも、丘と谷の連続する地形がコースに最適だからです。こうした理由で、延々と人間が関わりながら高い生物多様性が維持されてきた谷津田の自然は多くの場所で姿を変えつつあるのです。



『工業団地や住宅地に変わる甲賀地域の丘陵』

## 【谷津田の多様な自然を守るには】

甲賀地域の谷津田の自然を守るために、私たちはどうすれば良いのでしょうか。一つは、谷津田の自然の恵みを今後も受け継ぐため、あらゆる目的、方法を検討して利活用することです。たとえば、甲賀地域の特産物である美味しい“もち米”は粘土質の土壌の谷津田が主産地です。地域外の人の協力も得て、谷津田の自然を活用し、人間にとっても多様な恵みが得られる場所として生まれ変わらせるのです。もう一つは、谷津田を環境保全地域と考えることです。各地の“田んぼバイオープ”はその良い例でしょう。また、谷津田は元来、湧き水のある自然の湿地だった場所です。元に近い自然に戻すことも検討されるべきではないでしょうか。

みなくち子どもの森自然館では、平成19年に甲賀市レッドデータブックを作成し、地元では当たり前の自然の重要性和、そうした貴重な環境の消失傾向について、機会ある毎に訴えています。甲賀市中心部に近い「子どもの森公園」内にある谷津田では今後、有効な利活用や湿地の創出実験を検討しており、人と生き物の共生できる自然環境のモデルができればと考えています。関心のある皆様のご協力をお待ちしています。



みんなの  
リエデン

国際ソロプチミスト長浜

会長 平山 博子さま より

## リエデンとの出会い

国際ソロプチミストは女性による世界的組織のボランティア団体で、人権と女性の地位を高める奉仕活動をしています。日本では約500クラブ、1万3千人の会員が所属し、長浜は1989年に認証され現在31名の会員が奉仕活動に励んでいます。

私達がリエデンさんの事を知ったのは、一昨年、20周年を迎えるにあたり記念品をあれこれ考えている頃でした。

自宅のお茶室の屋根を葺き替えた会員から、取り出した古いヨシをコクヨ工業滋賀の方が貰いに来られ、その時ヨシのパルプで作ったノートを頂いたという話を聞きました。そこで、記念品の一つにこのノートを入れ、私達の琵琶湖に寄せる思いを伝えようという事になりました。運良くその直後に「びわ湖環境ビジネスメッセ」が長浜ドームで開催され、リエデンコーナーで色々なリエデン製品を拝見し、早速、その中のヨシメモに“守ろう母なる琵琶湖”のメッセージとクラブ名を入れ2千冊作って頂きました。

これをクラブ行事(チャリティーコンサート、講演会、お茶会、バザー等)開催時にお客様にお配りし、琵琶湖の環境保全の大切さをアピールしています。

昨年10月には『ヨシ植えボランティア』に参加しました。クラブでは、琵琶湖の水の浄化に役立ち、魚や鳥の生息場所となるヨシを保護し増やしていこうという地元のヨシ刈りボランティア活動に参加していましたが、ヨシ植えは初めての体験でした。

植え付けたヨシが波にさらわれないように、まず砂浜に穴を掘り「ヨシ植えマット」を埋め込んで杭を打ち、その中に長浜農業高校生の育てた「ヨシ苗」を丁寧に植えていきます。その後、苗が生え付き育てくれる事を祈りつつ、ヨシ笛の美しい演奏を聴かせていただきました。



3月15日にはコクヨ工業滋賀さんの工場に伺い、リエデン製品の出来る様子を見学させて頂きました。

大きな紙のロールから普段何気なく使っているノート、コピー用紙、複写式の伝票等が、寸分の違いもなく出来上がっていく様子に私達もくぎずけになりました。また、印刷に使われたインク廃液を水とインクの塊に分離され全く透明な水に処理されている所を拝見し、琵琶湖の水質、環境への取組みの充実、徹底ぶりに感銘を受けました。

私達は、これからも母なる琵琶湖の水質と環境保全のための取組みに積極的に参加して行きたいと思います。



皆さんの環境話題や取組み  
リエデンへのご意見などお寄せ下さい。  
ネットワーク通信で広げていきましょう。

『ネットワーク通信に参加しよう!』

お知らせ

## 今シーズンのヨシ刈りアルバム

### 伊庭内湖



時折日差しが差し込む  
冬らしいヨシ刈り日よりでした。



長く伸びたヨシと  
格闘しながら刈り取り作業。



ヨシを運ぶ姿も  
手なれたものです。



家族一緒にヨシ刈り体験。



きれいに刈り取られた跡は広々とした草原のように!

### 西の湖

雪の降る寒さ厳しい  
一日でしたが作業が  
終わると体も心も  
ポッカポカ。



めかるんだ足下に気を  
つけながらヨシの運搬作業。



ヨシがみるみる刈り取られ、寒さも吹き飛び  
だんだん心地よい汗が…

みなさまご協力ありがとうございました。

「ヨシでびわ湖を守るネットワーク」は皆様の共感により成り立っています。

### 編集後記

春を呼ぶヨシ焼きが各地で行われ、ヨシ刈りシーズンも終わりを告げました。みなさまお疲れさまでした。来シーズンもよろしくお願いします。

「甲賀地域の谷津田の自然」では、その地域の独特の自然環境を守り、維持することの難しさを改めて考えさせられます。

自然を守る、人の暮らしを守る、どちらも大切です。やはり共生する道を探ることが大切ではないでしょうか。

また、国際ソロブチミスト長浜のみなさま、工場を見学いただき有難うございました。これからも、幅広い分野でのご活躍をお祈り致します。(T・O)

### びわ湖を知る ■ 解答

④15種類

おなじみのニゴロブナ、ホンモロコ、イサザ……などの魚類です。ちなみに魚類と貝類とで固有種の73%を占めているそうです。